

徳島市子ども・子育て会議（令和7年度第1回）議事要旨

日 時：令和7年10月9日（木曜）午前10時から午前11時30分まで

場 所：徳島市役所13階 大会議室

出席者：委員計11名

榎本委員、岡本委員、小川委員、笠井委員、川村委員、後藤田委員、

祖川委員、床桜委員、松崎委員、南委員、八幡委員

事務局14名（子ども政策課ほか）

1 開会

＜松本第一副市長挨拶＞

皆様、おはようございます。本来なら市長の遠藤がご挨拶するところでございますが、本日は公務の都合で出席が叶いませので、私の方からご挨拶申し上げたいと思います。

本日は大変お忙しい中、令和7年度第1回子ども・子育て会議にご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。また、皆様方には日頃より、徳島市の子育て支援施策推進に格別の御理解と御協力を賜りますことに重ねて厚く御礼申し上げます。

この子ども・子育て会議は、徳島市の子ども・子育て支援施策について保護者・労働者の代表の方、子育て支援関係者、学識経験者など、地域の第一線で御活躍をされている方からご意見を頂戴し、反映させるために重要な役割を担う会議でございます。委員の改選が行われて初めての会議が行われますが、御就任いただいた皆様方には忌憚のないご意見を頂戴できますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度は徳島市の子ども・子育て支援事業についての指針であります、「第3期徳島市子ども・子育て事業計画」がスタートした節目という年でございます。各種の子育て施策の計画的な推進に現在取り組んでいるところでございます。また、国においては、こども基本法が制定され、基本的な方針を定め、こども大綱に基づき「こどもまんなか社会」の実現をめざして、様々な取組が進められております。

こうしたなか、市町村においても、こども基本法に基づき、こども計画の策定をすることが求められており、徳島市におきましても、こども計画の策定作業を進めているところでございます。

本日の会議におきましても、この計画素案について入れさせていただいておりますので、様々なご指摘やご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様方には貴重なご意見を賜りますよう、お願い申し上げまして、本日の挨拶とさせていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

2 委員紹介

事務局より、出席委員の紹介及び市（事務局）出席者を紹介。

3 会長、副会長互選

床桜委員が会長、榎本委員が副会長に互選された。

＜床桜会長より、選出に対する挨拶が行われた＞

＜榎本副会長より、選出に対する挨拶が行われた＞

4 議事内容

事務局

それでは、これより議事に入ってまいりますので、この後の進行は、床桜会長をお願いいたします。

床桜会長

それでは、次第に沿って会議を進めてまいりたいと思います。
まず始めに、議題1「令和7年度における計画の進捗状況について」を議論したいと思います。
事務局から説明をお願いします。

事務局
(子ども政策課)

＜資料に沿って、令和7年度における計画の進捗状況について説明＞

床桜会長

事務局より説明していただきましたが、長年こういった関係の仕事をされている方はよくご存じかと思いますが、そういった仕事に携わっていない方もいると思います。3～5ページで、確保の計画値や利用定員等、いろいろな数値があります。この数字の関係性について、もう一度説明をお願いします。

事務局
(子ども政策課)

3ページの量の見込みと実際の支給認定状況の比較は、第3期子ども・子育て支援事業計画を策定するために、令和5年度に行った子ども・子育て支援ニーズ調査で得られた利用意向率に推計人口を乗じて算出している数字となります。

4ページにつきましては、令和6年3月末の時点で、市内の全施設、認可保育所、認定こども園で計画をされている定員数と令和7年4月の実際の定員数を比較したもので、計画の策定以降に定員の上限の変更が見込み以上であれば差が生じます。

事務局 (子ども政策課)	<p>5 ページの「支給認定状況と利用定員の比較」につきましては、実際のニーズである支給認定者数と令和 7 年 4 月の実際の定員数を比較したもので、確保量が認定者数を若干下回っております。利用希望に対して定員が下回っておりますが、国が定める保育士の配置基準を満たす範囲で、各保育施設が弾力的な運用を行っており、令和 4 年度以降、待機児童は発生しておりません。</p>
祖川委員	<p>徳島市は、基本的には待機児童は発生していないということですか。これは、こどもの数が減っているということでしょうか。少子化の影響で待機児童がいないということなのであれば、量の確保などの議論はいらないのではないのでしょうか。</p>
床桜会長	<p>量の見込み等の数字についての説明と、その関係性を確認したかったということです。公募委員の方もおられますので、今の説明でご理解いただけたでしょうか。</p> <p>ほかにご意見がある方はどうぞ。</p>
松崎委員	<p>6 ページの「利用者支援事業等」ですが、他県では「基本型」を主に行っており、私たち現場の者としても「基本型」の利用者支援を進めていきたいとずっと思っているにも関わらず、今回の会議でも「基本型」の話が出てこないのはなぜでしょうか。</p>
事務局 (子ども保育課)	<p>本市におきましては、「第 3 期徳島市子ども・子育て支援事業計画」において、令和 11 年度を目標に、基本型を 15 か所整備することとしています。利用者支援を行うにあたりまして、効果的かつ将来にわたり持続可能な支援を行うことができるよう、現在、徳島市の支援体制について検討を行っております。</p> <p>また、計画では令和 11 年度を目標に整備するとしておりますが、施設の選定や事務手続等の調整がついた箇所があれば、順次、前倒しして整備していく考えでございます。</p>
松崎委員	<p>一気に 15 か所整備することは難しいと思います。モデル事業となるところを、まず 1 か所から。本当に、早急にモデルとなるところを見つけていただきたいです。</p>
後藤田委員	<p>徳島市は大きな津波に襲われる危険性が指摘されており、子ども・子育て事業についても当然ながら、そういった危険と隣り合わせに存在しています。</p>

後藤田委員	各施設においても、いざという時に備えなければならない。また、我々は地域のこどもたち、地域の住民であることから、施設にも何かできないかと考えております。そういった点を踏まえ、徳島市でも何か考えていただけないかという思いがあります。ご検討いただければありがたいです。
事務局 (子ども政策課)	こども園や保育園、養護施設等ありますが、そういったところに災害が起これば、特に影響が出ると考えております。今後、どう生かしていくか、どう反映させていくかを考えさせていただけたらと思っています。
床 桜 会 長	次に、議題2「令和8年度の利用定員の設定について」を議論したいと思います。事務局から説明をお願いします。
事務局 (子ども政策課)	<資料に沿って、令和8年度の利用定員の設定について説明>
床 桜 会 長	皆さん、質問等ありますか。よろしいですか。 <委員からの質問等なし> それでは、次の議題である「徳島市こども計画」に移りたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。
事務局 (子ども政策課)	<資料に沿って、徳島市こども計画について説明>
床 桜 会 長	それでは、ご意見のある方は挙手でお願いします。
岡 本 委 員	3ページ「4 計画の対象」として、「全てのこどもと子育て世帯（妊娠・出産期を含みます）」とありますが、図には妊娠・出産期の記載がありません。この図にも妊娠・出産期を入れた方が分かりやすいと思います。
事務局 (子ども政策課)	ご意見いただいた内容で、変更の検討をいたします。
祖 川 委 員	47ページに「子育て応援ボランティア（子育て応援・支援団の派遣）」という取組がありますが、初めて聞きました。子育てが終わり、こういった事業に興味があるおじいちゃん、おばあちゃんはたくさんいます。この事業はいつから実施しているのでしょうか。

事 務 局 (子育て支援課)	<p>本事業は平成14年度から実施しております。保育士・保健師・栄養士等の資格を持つ方や、子育て経験者の方を「子育て応援支援団員」として登録していただきまして、例えば児童館や子育てサークル等の依頼に応じて、こどもの健康管理、こどものしつけ等への指導講師として派遣等といった事業になります。</p>
祖 川 委 員	<p>市民の方はほとんど知らないと思います。この事業を大きくするにはどうしたらいいと思いますか。</p>
事 務 局 (子育て支援課)	<p>実績がダウンしている要因として、コロナ禍の時に、業務の性質上、数が大きく減りました。そこから復調できていないということもあります。</p> <p>祖川委員の言われるように、周知が足りない部分を改善しなければと思います。限られた施設での周知というよりは、例えば徳島市のホームページや広報誌等のメディアに載せております。最近だと SNS もあります。こういったところを活用しながら広報できたらと考えております。</p>
松 崎 委 員	<p>地域の子育て支援に力を入れたいと考えているシニア世代の方は多いと思います。その方たちが生き生きと活動できる場所として、シニア世代の方が研修を受けてボランティア登録していただき、新たな形で取り組まれたらいいと思います。</p>
祖 川 委 員	<p>地域を利用しない手はないと思います。待機児童がゼロというのはいいことだとは思いますが、やはり子育てが大変なのは、ちょっとしたお手伝いをしてくれるボランティアがいないからだと、私は思います。</p> <p>この事業をご存じだったのは、松崎委員だけではないでしょうか。徳島市民に知られていない事業なのではないでしょうか。</p>
床 桜 会 長	<p>役所の仕組みとしては、申請すれば対応するけれども、申請しなければ実行できない。そうになると、事業がほとんど知られていないというケースが多いと思います。いくらいい事業を作ったとしても、市民が知らないのではどうにもなりませんし、いかにして市民に知ってもらうかをこども計画の中に入れていただきたいと思います。</p>
松 崎 委 員	<p>質問ではないのですが、徳島市の取組について一冊にまとめた「子育てガイドブック さんぽ」という冊子が毎年発行されています。とてもよく分かる冊子なので、資料として配布していただいたら、委員の方々も徳島市の取組が分かりやすいかと思いました。</p>

笠井委員	<p>事前質問でも書かせていただきましたが、こども家庭庁は「はじめの100ヶ月の育ちビジョン」ということを言っていますが、これでは幼児期までで支援が切れてしまいます。切れ目のない支援が重要であると言いながら、ここでは切れ目があるように思いましたので、素朴な思いとして伝えさせていただきました。</p>
川村委員	<p>私はこどもの居場所づくりのボランティアに携わっております。先ほど皆さんもおっしゃられていましたが、どうしても必要な方へ情報が届かない、というのは自分としても感じるところですし、他の子育てボランティアの方も同じことを感じていると思います。</p> <p>子育てボランティアのことは、私もSNSで投稿を見ておりますが、公的な場所で見かけたことがあるかと言われればそうではありません。ですので、本当に必要な方に情報を届けるためには、もう少しやり方を考えていかなければならないと感じています。</p>
床桜会長	<p>こども計画の有効性を高めるための視点として、大変貴重なご意見でした。</p> <p>事務局に確認ですが、素案作成にあたり、こどもたちの意見を聞いているのでしょうか。</p>
事務局 (子ども政策課)	<p>学童保育や児童館、間接的にこどもをお預かりしている施設ではお伺いしています。</p>
祖川委員	<p>追加資料2の4ページに、子育て事業職員から聞いたとありますが、もうちょっと聞いてほしいです。</p>
床桜会長	<p>もう少し意見を聞いてもいいかもしれません。</p>
八幡委員	<p>たくさんの意見をお伺いし、資料も拝見させていただきましたが、やっぱり一番は家庭・家族でこどもを支えていくことなのではないかと思いました。支援が必要な方に支援を届けることは大切ですが、家族で助け合いながら育てていく環境を充実させてほしいと思います。</p> <p>こういった場を設けていただけるのはありがたいです。もっともっと、こどもたちの声を聞いてほしいと思っています。</p>
榎本副会長	<p>皆さんの意見の中で、私もそこかなと思った所としては、やはり情報です。様々な取組を実施しても、それが多くの人に届いていない。待っている状態では、一番必要な人に届いていない、アクセスできないという状況</p>

榎本副会長

になってしまいます。どのように巻き込んでいくか、いろいろな支援があるということを発見する「入口」を考えないといけないかと思います。

行政の方と話をすると、SNS 活用の話が出てきます。SNS は作っただけでは「ビラを置いて待っています」とほとんど変わりません。SNS が出たばかりの10年前であればそれでもよかったかもしれませんが、SNS アカウントを作りました、投稿しています、だけでは足りないです。例えば、若いお母さん方に見てほしいのであれば、日々どういう投稿をすればフォローしてもらえとか、そこまで考えて SNS を使わないとあまり意味がないかと思います。

もう一つは、掘り起こしてから活用、というところです。ボランティアとして子育て支援に携わりたいと考えている、子育てが終わった世代の方が多くいらっしゃるという意見がありましたが、大学生や高校生なども、ボランティアに参加したいというニーズは一定数あると思います。そこをいかに掘り起こして活用していくかが大切なのだらうなと思いました。

また、子育て政策において、当事者からの意見をどうくみ上げるかということが大切かと思っています。こどもや保護者から意見を吸い上げることが必要になってくるかと思いますが、吸い上げ方をちゃんと考えないと、意見を言いたい人、声の大きい人の意見をピックアップして終わってしまいますので、いかにいろいろな人から意見を聞けるのか、ということが大切になってくると思います。

今、当事者の方が施策や支援に関わるのは当たり前になっています。私は障害をもった方への支援に関わっていますが、新たな支援内容について当事者の方に意見を聞くとか、どういうことをしたいのか当事者に意見を聞くことが基本になっています。未就学児は難しいにしても、ニーズをくみ上げなければならない。意見聴取について拝見しましたが、こどもたちから出てきた「こんな学校になってほしい」という意見は、いかに大人がアレンジメントをしてあげるか。教育・保育の中で、どうアレンジして実施するかということを考えなければならないと思いました。

最後に、他の委員の方からもありましたが、学校への連携という部分が欠けていると思いました。就学児の健康診断等をきちんと位置付ける自治体が増えている中で、徳島市でも実施をお願いしたいところや、「チーム学校としての体制整備」というところで、いろいろな専門家を活用するということが書かれていますが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとかだけではなく、地域にいろいろな専門家がいらっしゃると思います。そのような方々も参加できるような仕組み、いわゆる肩書に関わらず参加できるようなチーム体制をつくれるといいと思いました。

床 桜 会 長

まだまだ皆さん、ご意見があるかと思いますが、今日はここで終わらせ

床 桜 会 長	<p>ていただきます。</p> <p>事務局から連絡事項等あればお願いします。</p>
事 務 局	<p>第2回の会議は10月30日、木曜日。午前10時からを予定しておりますので、皆様よろしく願いいたします。</p> <p>これもちまして、第1回徳島市子ども・子育て会議を終了させていただきます。皆様、本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございました。</p>